

【協議事項】

1 警察職員の特別派遣について

（警備部）

警察本部から「全日本教職員組合「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」の警備に万全を期すため、愛知県公安委員会から本県公安委員会に対して援助の要求がなされたことから、御審議をお願いする。」旨の説明後、本件は了承された。

【報告事項】

1 詐欺事件被疑者の逮捕について

（刑事部）

警察本部から「戸畑警察署及び捜査第二課は、7月22日、取引会社代表と共謀し、資材の架空取引を作出して、商品が納品されたかのように装って、勤務先にその支払いを承認させ、現金を騙し取った従業員等を逮捕した。」旨の報告があった。公安委員から「長期間犯行が発覚しなかった理由はあるのか。」旨の発言があり、警察本部から「多くの関連企業から多数の資材や部品が納入されているほか、ベテラン職員による犯行であったことで、見落とされていたものと考えられる。」旨の説明があった。公安委員から「被害が発覚した端緒は何か。」旨の発言があり、警察本部から「資材の使用量と発注量に乖離があることに会社が気付いて発覚している。」旨の説明があった。

2 道仁会傘下組織に対する事務所使用禁止等仮処分命令の執行について

（暴力団対策部）

警察本部から「7月27日、福岡県久留米市所在の道仁会傘下組織事務所に対し、裁判所の執行官が事務所使用禁止等仮処分命令の執行を行った。この命令により、本件事務所内での定例会の開催や組員の集合等が禁止される。」旨の報告があった。公安委員から「仮処分命令の執行後も住民の不安があると思うが、特別警戒を行うのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察本部と警察署が連携して警戒を行っている。」旨の説明があった。公安委員から「仮処分命令執行後の監視活動は、どのように行うのか。」旨の発言があり、警察本部から「通常の警戒態勢の中で状況を把握していく。」旨の説明があった。

3 第35回暴力追放福岡県民大会等の開催について

（暴力団対策部）

警察本部から「8月18日、J：COM北九州芸術劇場大ホールにおいて、暴力追放福岡県

民大会及び北九州市「暴力追放・安全安心まちづくり」市民大会を合同で開催する。高校生によるメッセージ作品披露や暴力追放運動に多大な功労があった団体等の表彰等を行って、暴力追放シュプレヒコールで締めくくる。」旨の報告があった。公安委員から「若い世代に暴力団追放のメッセージを伝えていく必要があり、高校生の参加は大切であることから、多くの世代に参加していただけるようお願いする。」旨の発言があった。

4 飲酒運転撲滅１００日チャレンジ作戦の実施について

(交通部)

警察本部から「８月２５日から１２月２日までの間、酒類を提供する県内の飲食店が参加し、飲酒運転撲滅１００日チャレンジ作戦を実施する。参加する飲食店は、店舗におけるポスター等を活用した広報啓発、客に対する車両利用の確認や県警察と協働した通報訓練等に取り組む。」旨の報告があった。公安委員から「海の中道大橋の事故から２０年にあたる年であり、県民への広報啓発をしっかりと実施していただきたい。県警も広報啓発のためのチラシ等の配布を行うのか。」旨の発言があり、警察本部から「チャレンジ作戦は参加店舗が中心に広報啓発を行うが、県警察からもチラシ等の提供を検討する。」旨の説明があった。公安委員から「報道もされるのか。」旨の発言があり、警察本部から「報道されるほか、ラジオでも紹介されている。」旨の説明があった。

5 危険運転致死事件被疑者の逮捕について

(交通部)

警察本部から「南警察署及び交通捜査課は、８月１日、福岡市南区の市道において、呼気１リットルにつき０．５ミリグラム以上のアルコールを身体に保有する状態で普通自動二輪車を運転し、被害者運転の自転車に追突して死亡させた事件で、被疑者を危険運転致死罪で逮捕した。本年改正された自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律を、本県で初めて適用した事件である。」旨の報告があった。公安委員から「高濃度のアルコールが検知されているが、どの程度飲酒していたのか。」旨の発言があり、警察本部から「飲酒量については、今後の捜査で明らかにしていく。」旨の説明があった。

6 令和８年熊本地震に伴う特別派遣について

(警備部)

警察本部から「７月２８日、午後４時２７分に発生した熊本県宇城市を震源とする地震に伴

い、同日以降、広域緊急援助隊警備部隊、広域警察航空隊及び広域緊急援助隊交通部隊等を被災地に派遣し、イオンモール熊本での救出救助活動や信号滅灯交差点での交通整理等に従事した。今後も、特別自動車警ら部隊等の派遣を予定しており、引き続き、熊本県公安委員会の援助要求に応じて部隊を派遣し、災害対応に全力を尽くすこととしている。」旨の報告があった。公安委員から「余震や酷暑の中、苦労があると思うが、引続きしっかりと対応をお願いしたい。救助活動は終わっているのか。」旨の発言があり、警察本部から「現在は救助活動を終え、防犯活動等が中心となっている。」旨の説明があった。公安委員から「派遣したヘリコプターはどのような活動を行ったのか。」旨の発言があり、警察本部から「被災地上空に向かい、被害状況の把握を行った。」旨の説明があった。

7 飲酒運転撲滅「北九州地区 ONE TEAM 作戦」の実施について

(北九州市警察部)

警察本部から「北九州市警察部は、8月21日から同月31日までの間、北九州地区警察署管内において、飲酒運転の多発時間帯における取締りや、広報啓発等の街頭活動を強化する飲酒運転撲滅「北九州地区 ONE TEAM 作戦」を実施する。」旨の報告があった。公安委員から「ONE TEAM で一体感を持った取組みを進めていただきたい。」旨の発言があった。

8 警察業務への生成AIの活用状況について

(警務部)

警察本部から「県警察では、警察庁が構築したクローズド環境下における生成AIの利用を本年1月に開始し、相談記録の作成、翻訳業務及び議事録の作成等に活用して作業時間の縮減を図っている。5月以降、利用権者の範囲を段階的に拡大しており、今後、生成AIの活用状況について確認・検証を行って具体的な成果等を把握し、県警察独自の生成AIの整備に向けた検討に活用する。」旨の報告があった。公安委員から「クローズド環境であっても、生成AIが参照する情報は定期的に更新されるのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察庁において更新されるものと認識している。」旨の説明があった。公安委員から「利用者が入力した情報は蓄積されないのか。」旨の発言があり、警察本部から「利用者が入力した情報は蓄積されないが、今後、県警独自の情報を蓄積できる生成AIの導入を検討することとしている。」旨の説明があった。公安委員から「インターネット上の生成AIを利用することは情報流出につながる虞があるが、そのような利用をしてはならないことについて、職員に対し示しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「従前から業務上取扱う情報の管理については、情報

漏洩に繋がらないように規程を定めている。」旨の説明があった。